

家族で満喫、バイクスピーク。

岩田選手のお嬢さん岩田友理子さんからのレポートです。(編集部)

第76回「バイクスピーク・オートヒルクライム」に今年も参加してきました。昨年は他の日本人選手のサービスの方が手伝って下さったのですが、今年は全て父と弟が中心に、いつもは見ていただけの母までが手伝い、本当に家族で頑張って車のメンテナンスを行いました。父は昨年までと比べ、より気合が入っていたようで、暇な時間はレンタカーで何度も、普段は観光用道路であるコースを走りに行っていました。

過去の参加では、第73回大会は天候に恵まれず全コースを走れず、第75回大会は車の不調で思う走りが出来ませんでした。今大会、そんな無念さをきつと胸に抱えていたであろう父の、ゴールした直後の顔は満面の笑みで、結果よりタイムより何より、自分の思い通りの走りが出来た事がうれしかったようでした。車を渡航させる前にラリーアートさんに色々協力していただけたお陰で、エンジンも快調に動いたからと感謝しています。タイム12'54"51、オープンクラス第4位で過去最高でした。全ての車がゴールした後下山すると、観戦に来ていたギャラリーの方達が道路脇に出てきて、選手に手を振っていました。その中を私も下山しましたが、とても気持ちよくて父が何度も来たがる気持ちがすごくよく分かりました。

ところでバイクスピークにはレースが目的ですが、他のことでも私たち



家族は色々楽しんでいます。毎日の食事も自炊なのでその食材をスーパーで買うことだけでも、色々変わった物があるので、ついつい時間が長くなってしまいます。地元の美味しいチョコから変わった芸術品まで、おもしろい店がたくさんある「オールドコロラドシティ」も楽しい所です。ゴルフ好きの母は、車のメンテナンスでお世話になっている工場の社長の計らいで、会員制で内閣総理大臣も利用したブロードモアゴルフ場でプレイでき、すごく上機嫌でした。こうして父だけでなく私達家族も、バイクスピークを思いっきり味わってきました。



家族全員で挑戦し過去最高のオープンクラス4位!

WRC初参戦! 完走!

ついに念願がなつてニュージーランドラリーに出場しました。昨年10月に参戦を決めたのですが、アツという間に出発の日を迎えてしまいました。日本を離れること自体が2回目、緊張しつつレキスタート。レキ車はレンタカー+ノーマルタイヤ。道が広いのとあまり曲がっていないこともあって100km/hを越えることもしばしばなのですが、今年のNZの冬は雨がが多く路面が湿っていて柔らかなので、やっかいな事の上ない状態。

7月24日よいよラリースタートの日。この日は車検&スーパーSS1本のみ設定でしたが、残念ながら朝からずっと雨。特設会場のスーパーSSはスタスタで大変なスタートとなりました。翌25日も雨。26日のleg2はさらにひどい雨。路面は日本のウェットダートと比べて滑る上に高速なので、ちょっとしたミスで即コースアウトしてしまいそうでベースが上げられずにフラストレーションがたまるばかり。今回の目標は絶対完走な

のだ!

最終leg3の27日、やっと晴天に恵まれ、NZの評判通りの高速硬質ダートを走ることができました。「やっぱりこうでなくっちゃ」という道を、自分なりにいくらか走れてちょっとだけ満足しましたが、この悔しさは来年ぜひ晴らしたい!結果は総合31位、グループN9位でした。WRCに参戦して一番感じたことは「世界ってデカいなあ」という事。何かって言われると困るのですが、漠然とそういう印象を受けました。とても有意義な体験でした。

最後になりますが、今回の参戦に際しましてご協賛いただきました各社各位、サービスのため現地同行していただいたテンドー関係者各位、誠にありがとうございました。



ナビのCMSC福島佐藤忠直選手と。(写真上)
念願のWRC参戦で懸命に走る丹羽選手。(写真下)

メカのお陰でうれしい完走。

7月24日、待ちに待ったNZラリーのスタートです。コドライバーシートには通算5回目のコンビを組むCMSC広島の野村左江子が取まっています。我がラリーアート・CMSCランサーはスタートランプを後に、デュアルレースを行うSS1に向かいます。対戦相手は地元レディーストップドライバー、ベネッサのグループAランサーです。デュアルレースは初めてとはいえ、グループAランサーの加速にはやたら感心しました。



川に落ちるハブニングを乗り越えて完走した中島選手。

7割程度で走ったleg1では、私の後ろを走るベネッサが私のグループNランサーとタイムがあまり変わらない為、機嫌が悪い様子。出走順を上げたleg2。準備期間を入れ18ヶ月目にして大ハブニングが発生しました。ベースを上げたSS14、折りからの大雨でベースノートには無い大きな水溜りに足を取られ、そのままその先の増水した川に頭から落ちてしまいました。大きく遅れはしたもののギャラリーに助けられサービスにたどり着き、日本から同行したメカの今田さんや外人スタッフの大活躍で事無きを得ました。leg3は快調に走り、オークランドのゴールランプに総合39位グループN12位で、感動と涙とともに登ることができました。

最後にラリーアートをはじめとする皆さんの力をお借りして完走できた事に感謝します。ラリーハンザイ! 友情バンザイ!

CMSC帯広

夏のダートラ練習会

今年も昨年に引き続き夏のダートラ大練習会を開催しました。今年是不順な天候が続き、当日もあいにくの雨でしたが、お盆にも関わらず集まった24人は熱心に走り込んでいました。

恒例の焼き肉で腹を満たした後はダートクロスで盛り上がり、車三昧の一日となりました。シーズン後半に向けてチーム員のよりいっそうの活躍を期待させる練習会でした。(CMSC帯広 中村洋次)



CMSC青森 6月28日,8月16日
CMSC青森ジムカーナ第2,3戦

大盛況の'98ジムカーナシリーズ。

'98CMSC青森ジムカーナシリーズ第2戦は6月28日、第1戦に続きすっかり馴染みとなった岩木山麓の岩木山スキー場駐車場で開催。第1戦ではジムカーナ参加台数として過去最高の93台。これ以上は増えないと思っていたら、今回、原因不明???の95台と記録をあっさり更新。1戦目と同様、運営はコース設定や参加台数に合わせて2台をコースに入れてスムーズに行き、エントラントから好評でした。

第3戦は同じ場所でお盆の8月16日に開催。当クラブ主催のジムカーナ始めて以来の雨でしたが、参加台数は今後二度と無いであろう115台を記録しました。(我々もビックリ)ローカルイベントでは最近参加台数が減少傾向にある中で、100台を越えた事はすばらしいことだと思います。ちょうどお盆の里帰り中のジムカーナファンが北は札幌、南は東京から集まってきてくれました。一年ぶりに見る顔、奥さんや子供と一緒に懐かしい顔や会話が会場のあちこちで聞かれました。

午前中降っていた雨もオフィシャルやエントラントの思いが通じたの

でしょう、2トライの始まる午後には雨も上がり、コンディションも良くなってきました。表彰式では恒例のシャンパンシャワーで盛り上がり、たくさんの賞品を手にした入賞者や、抽選会で思わぬ賞金を手にした参加者は、来年また会うことを約束していました。

'98ジムカーナは過去に無い盛り上がりで参加台数を数えました。クラブ員によるコースの清掃、草刈り等日頃からの地道な努力が少しずつ実を結んでいるのだと思います。

追伸 競技終了後、競技役員(おじさんクラス)による走行を同コースで行いましたが、会長のサイドターンを誰も信用せず、同乗者がサイドブレーキを引いたのではないかと



話を聞いた会長は同乗者に一生懸命証明させていました。1年くらいは自慢することでしょう。(CMSC青森 小館 久)

CMSC岩手 8月9日
ダイヤモンドトライアル

表彰式も恒例の盛り上がり。

お盆前の8月9日、北東北シリーズ「第1回岩手三菱ダイヤモンドトライアル」を開催しました。岩手県では今年初の、当クラブとしても1年ぶりの開催ということで参加台数等の不安もありましたが、61台参加ということでその不安もふっとびました。

梅雨明けもまだでしたが、天候も味方してくれたようで最高のコンディションとなりました。競技の方は事故などのトラブルも無く、オーバーオールもお約束のごとく「エボ」が取りました。表彰式ではスポンサーの皆様のおかげで豪華な賞品に、エントラントも満足の様子。特に恒例化?

した全員参加のジャンケンによる扇風機・自転車の争奪戦は最高に盛り上がりました。(CMSC岩手 工藤 長実)



CMSC島根 8月30日
'98CMSC島根チャレンジカップダートラ

伝統の晴天パワー、今年も!?

8月30日朝、当イベントは大雨、濃霧に見舞われ、比田スポーツランド山陰では40名のエントラントがうめしそに空を見上げていました。年2回のダートラ・ジムカーナ主催では、8年連続好天を記録していた当クラブ。オフィシャルの間では「今年はどうトズラしようか」なんて冗談も交わされたほど、赤土の路面はどんどんぬかるんでいきます。しかし、ゲストのラリーアート・須賀さんが晴れ男なのか、当クラブの伝統パワーなのか、試走車と共に雨は止み、霧は晴れたのです。

いつも通りの激走が展開され、いつも通り順調にスケジュールを消化し、トラブル車もほとんどなく終了しました。「無事これ名馬」という格言もありますが、朝、思い切り力こぶに気合いを入れたオフィシャルは肩

すかしをくらった感じで、あつけなような「雨応え」のないような大会でした。来年もいい天気でありますようにと願うとともに、もうひと工夫もふた工夫もして、おもしろい大会にしたいと思います。(CMSC島根 古藤浩美)



'98チャレンジカップ

福島奪首! 大阪とのマッチレースか?

●クラブ別獲得ポイント

	1~5月	6~8月	9~11月	12月	合計
福島	810	787.5			1597.5
大阪	909	545			1454
広島	418	530			948
道北	522	397			919
群馬	25	750			775
山形	319	301			620
青森	253	357			610
帯広	256.5	301			557.5
浜松	295	250			545
札幌	274	241			515
栃木	213	264			477
香川	262	196			458
岐阜	162	272			434
島根	216	145			361
岩手	115	212			327
秋田	66	185			251
鹿児島	182	60			242
埼玉	77	119			196
仙台	40	126			166
愛知	21	0			21
千葉	0	0			0

昨年の覇者福島がここでトップに立ちました。2位大阪とのトップ争いの様相です。広島が3位に浮上し上を狙って

いますが差はまだあります。個人部門でもトップ争いが激しくなっていて、どちらも予断の許せない展開ですね。

●ラリー・ドライバー部門

鎌田 豊	道北	260
杉山 聡	道北	199
坂田明朗	札幌	122
鷹野健太郎	道北	117
中尾 晃	鹿児島	101
岩見浩紀	道北	100
山口 修	鹿児島	90
二野下幸夫	広島	80
田口幸宏	埼玉	66
白井 修	香川	60

●ラリー・ナビゲーター部門

中村洋次	帯広	132.5
川村知恵	道北	117
梶山 剛	広島	80
内藤修一	道北	61
山地英樹	香川	44
横山 浩	札幌	41
平尾高王	香川	40
須田 力	秋田	40
船津康一	群馬	30
安藤朋司	岐阜	24

●ダートトライアル部門

秋間忠之	大阪	536.5
小出久美子	大阪	403.5
古澤裕久	群馬	401
河内 涉	広島	346
宝田芳浩	札幌	312
赤羽政幸	栃木	300
荒井信介	群馬	216
大泉 剛	福島	210
四戸岳也	岩手	206
湯本 敬	山形	200

●ジムカーナ部門

宇野慶一	青森	267
工藤裕史	青森	240
高野 聡	福島	164
平山敦朗	浜松	144
三崎朋弘	帯広	126
佐藤義隆	福島	124
渡辺 弘	福島	95
青沼達也	帯広	85
長内 豊	帯広	67
小館 久	青森	58

●レース部門

小川日出生	山形	184
エド・ムラサキ	山形	150
高橋しげる	仙台	122
川口法行	栃木	44
添田 正	栃木	44
内堀篤史	栃木	32
木下アキオ	山形	13

●ポイントのつけ方

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	11位以下	リタイア
ポイント	A 40	30	24	20	16	12	10	8	6	4	2	1
	B 20	15	12	10	8	6	5	4	3	2	1	0.5

A=全日本選手権(含むレディースクラス)
地方選手権(除くレディースクラス)
全海外FIA ASN公認競技
但し、ラリーには各地区の最上級シリーズ
ダートトライアルにはオールスターダートトライアル
ジムカーナにはJAF CUPジムカーナ
レースにはミラー・ジュニア、スーパー耐久シリーズを含む
B=それ以外の競技会